

朋郎を紡ぐ人々②

長崎県雲仙市
小浜町
森 久之さん



今年の春。咲き誇る春爛漫の車窓の景色のなか、日本列島を縦断し、はるばる長崎県雲仙市小浜町に行つてまいりました。我々を呼んでくださったのは、小浜町内で障害福祉事業サービスを展開する森久之さん。元・鼓童のメンバーで（1992年～1996年在籍）、23歳で故郷の小浜町に戻り、建設会社勤務を経て現在は様々な福祉事業を手がける「株式会社おばまの森」の代表取締役社長であります。春のツアーでは、新しく建てた施設の竣工式のお祝いや、幼稚園の入園式などで朋郎も演奏させていただきました。

建設会社にいる頃から大きなイベントを立ち上げては演奏で呼んで下さっている久之さん。鼓童の先輩（内藤氏）と後輩（森氏）から、年月を経て主催者（森氏）とゲスト（内藤氏）という関係になったお2人の、楽しい再会の時間はいつもあつという間に過ぎていきます。今回はそんな森久之さんにお話を伺いました。

―内藤哲郎と森久之さんとの関係は

哲郎さんが鼓童を独立してすぐ、ソロコンサートを企画して小浜町に来てもらいました。その後も色々な形で来てもらっています。鼓童時代から考えるともうずいぶん長い付き合いになるけど、とにかく哲郎さんは変わらぬ。例えば、若い時は勢いや体力まかせで太鼓を打っていても、歳を取るとそうはいかない。そうやってスタイルが変化していくプレイヤーは多いですが、哲郎さんは20代からずっと変わらない。スタートから高い技術で「自分のスタイル」で太鼓を打ち



5人、6人フルで常駐させて子供達を見ようとしています。

例えば共同生活援助の入居者さんの中には、親御さんが障害があることを隠すことも多く、知らないこと・経験してない事がとても多かつたりします。回転寿司に行つたことがない、ケンタッキーに行つたことがない、映画に行つたことがない…そういうのを全部経験させてあげたくて、色々なところに連れて行つたりしています。恋愛もさせたいし、結婚もして欲しい。実は入居者さんの1人に、恋愛をして嫁に出した子もいるのです。

させたいことがいっぱいある中のひとつに、本物を見せたいというのがあります。コンサートに行くのはなかなか難しい。だったらせめてクリスマス協会に本物のプロを呼ぼうと。どんなに費用がかかっても本物を見せたい、というのがあつて毎年色々な方を呼んでいます。それを12年間続けてきました。おばまの森に居たら、毎年プロの演奏を貸し切りで見られるよ、というのがよそとの違いです。まあ、職員から言わせれば社長が呼びたい人は偏つてると（笑）。どうしても和太鼓系が多くなりますね。でもまあ、おいが社長のうちには良かったい！と言ってます（笑）。

―障害者の方の就労支援については

2年くらい前に、某有名アイドルのコンサートグッズの袋詰めの仕事を受けました。グッズの数がものすごく多くて、物販会社では袋詰めができないのでうちに送られてくるのです。その



「おばまの森」の元気な職員さん集合

続けていて、そして今そのまま落ちずに「自分のスタイル」で太鼓を打ち続けている。これはすごい事なんです。すごいなと思うし、そうやって変わらぬ太鼓を打ち続ける哲郎さんを見るのが単純に嬉しいのですよね。業種は違うけれど、また小浜に呼べるように仕事を頑張ろう、と思うわけです。

―福祉事業サービスを始めたきっかけは

私の次男は知的障害を持っていました、ずっと家族で訓練をしながら育ててきたのですが、長じるにつれ「この子は大人になった時、どう



鼓童時代、まだ先輩（左）と後輩（右）だった頃

やって生きていけばいいのか」と考えるようになりました。自分の子供を預けるなら安心できる施設がいい。でもそんな施設は当時そんな無く、だったら創ろう！と。その時はお金のことも制度のことも何も知らない。ただ家族が求めるもの、安心できる施設を創ろう、とそれだけでした。そして創るために何を準備するべきかを一年間、一所懸命考えました。後に建設会社をやめ、共同生活介護事業や就労継続支援、放課後等デイサービス事業などを手がける「おばまの森」を立ち上げました。会社は小さくても長崎県で一番のサービスを提供する施設を作りたい、というのがオープンからの理念でした。大手は全国一番を目指すのかもしれないけれど、我々とはとにかくしっかりしたサービスで長崎県が一番を目指そうと。職員さんの中には「私はレジ打ちしかしたことがないから」と不安がる人もいます。でもその何が問題か。子育てしている主婦が一番実力があるのだから、と言いつつやり続けて、そして今長崎県で一番注目される施設になりました。

放課後デイサービスを運営していますが、うちは学習支援に特化しています。どんな重い障害がある子でも全員勉強をさせるのです。例えば、大きなマスに自分の名前を書けるように、一年間ずっとやり続ける。毎日させるんです。そうするとね、ちゃんと出来るようになるんです。職員は

時に、こういう大手との仕事を受けることはステータスだと思いましたが。受注生産というのをちゃんとしないと月々の売り上げの目標にならない。障害者の人達であつても、そういう永続的な受注製作をしなければならぬと考える、その方向をずっと探っているんです。今、長崎にある自動車販売店の展示車を洗車する仕事を請け負っています。販売店の社長さんに直談判して取り付けたのですが、1日20台～30台の展示車を障害者の方が3、4人で洗車して帰ってくるという仕事です。高級車を洗うって何だか夢があつてすごく良いなど。そのために洗車の技術も訓練しました。

仕事は夢があるのが大事。障害者の人達はこれしか出来ないから、と最初から決まつた事だけをさせるのではなくて、新しいことをいっぱい経験させて自分で選んでいって欲しいのです。だからとにかく沢山の仕事を紹介したい。社長が営業していっぱい仕事をとってくるから、皆に選ばせて出来ない事はほとんどやめていこうと。そう職員に言っています。

今、3年後に新たな仕事をしようよと、それに向けて準備を進めています。すごいことを計画していますよ！内緒ですが（笑）。夢のある仕事です。ぜひ楽しみにしてください！その時はそうすね、朋郎さんにまた演奏で来てもらおうかな。哲郎さんは多分3年後も大きく変わらないでしょうから、またそれも楽しみます（笑）。

鼓童のプレイヤーだった頃から経営についてずっと考えていたという森久之さん。当時、住居棟に住んでいたメンバーを集めて「資格を取らなきゃだめだ！太鼓一本じゃ無理だ！通信でもいいから資格を取ろう！」とよく訴えていたそうです。同感する人は誰もいなかったそうですが（笑）。そんな経営手腕とたくさんの楽しいアイデアに溢れる久之さんですが、若い頃から変わらぬキュートな笑顔と行動力で、これからも沢山の障害者の方やそのご家族を幸せにしていくことでしょう。また数年後にどんな計画をしてどんな風に変化していくのか、またの再会がとても楽しみです。（文責 朋子）